

平成23年度学校教育研究大会実践研究のまとめ

鹿児島市立 牟礼岡小学校

1 研究主題

自ら学び、豊かな想像力と表現力を備えた子どもの育成
～国語科の「読むこと」についての指導を中心に～

2 研究の仮説

〔仮説1〕

学年の発達段階に応じて、「叙述に即して適切に読む」ための手立てを共通理解し、継続して指導すれば、子どもたちの読み取る力や問題を把握する力を高めることができるのではないか。

〔仮説2〕

「読むこと」と「書くこと」との関連を図った言語活動を計画的に設定すれば、見通しをもって読み進める力を身に付けさせることができるのではないか。

〔仮説3〕

他の教科・領域の指導と関連させ、文字言語の理解を通した指導を幅広く行えば、子どもたちに、より実践的な文章を読み取る力を身につけさせることができるのではないか。

3 研究内容（主なもの）

(1) 豊かな文章表現に触れさせ、子どもたちの想像力や表現力を高めるとともに、文字言語を理解する機会を増やす。

ア 国語科の文学的文章教材の指導

- ① 物語の読解指導ための基本的な指導の流れ（単元の指導計画）
- ② 一単位時間の学習過程（自力解決から集団解決へ；グループ・ペア活動）
- ③ 場面主題の分析から学習課題の設定の仕方
- ④ 自力解決のためのワークシート活用
- ⑤ 単元のねらいを達成するための言語活動の設定

イ 読書指導のより一層の充実

- ① 子ども一人一人の実態に応じた参考図書を選定
- ② 年間を通した読書指導の取組
- ③ 読み聞かせの在り方と各学年での絵本の活用
- ④ 音読・読書の家庭での取組，家読の効果的活用法

(2) 「叙述に即して適切に読む」ための手立てを明確にし、文章を把握するための実践的な力を高める。

ア 国語科の説明的文章教材の指導

- ① 説明的文章教材の指導のねらいや特性の理解
- ② 単元の指導の在り方
- ③ 一単位時間の学習過程
- ④ 要旨・要点のとらえさせ方
- ⑤ 単元のねらいを達成するための言語活動の設定

イ 算数科の文章問題の指導

- ① 問題場面のとらえさせ方と具体的な手立て
- ② 全校的な取組を行うための手立て

4 研究の方法

- (1) 子どもの実態を適切に把握する。
 - ア 各教科・各領域の到達度
 - イ 子どもの生活習慣
 - ウ ノートの書き方・発表の仕方・グループ活動
- (2) 目的を明確にして、具体的な取組みの計画を立てる。
 - ア 学力向上対策委員会
 - ① 学習のきまりの精選と定期的な自己評価
 - ② ノート指導の共通理解
 - ③ 家庭学習のしおりの再確認と活用
 - イ 国語部
 - ① 文学的な文章教材の指導の在り方
 - ② 説明的な文章教材の指導の在り方
 - ③ 計画的な言語活動の設定
 - ウ 算数部
 - ① 学力検査等の文章問題の抽出
 - ② 文章問題の指導の在り方
 - エ 読書指導部
 - ① 年間を通した読書指導のための手立て
 - ② 参考図書等の選定
 - オ P T A 専門部との連携
 - ① 生活指導部（基本的な生活習慣）
 - ② 保健体育部（食育と健康保持）
 - ③ 研修部（読み聞かせ）
- (3) 共通理解・共通実践をする。
 - ア 学習に関するきまりや躰に関することを学年度当初に共通理解し、全学級実践
 - イ 略案にて全員授業提供、学年部等による参観
 - ウ 細案での研究授業（小中連携研修会）
- (4) 各取組の成果を適切に調査し、課題をとらえる。

5 主題に関わる研修の実績

月	日	曜	研 修 項 目 ・ 内 容
4	11	月	○ 学力向上のための共通理解 「学習のきまり6か条」「ノートの使い方」「算数科文章問題の解き方」「家庭学習の進め方」について再度確認し、共通理解を図った。
5	17	火	○ 提供授業 2年 国語 単元名「読んだことをまとめよう」 教材名「たんぽぽのちえ」 研究の視点 ・ 題名や問いの文、めあてに関わるキーワードを明らかにし、その言葉に着目して段落を読めば、要点をとらえることができるのではないかと。
5	23	月	○ 国語科説明的文章教材の指導の在り方 1学期の説明的文章教材の指導の仕方、演習 ・ 説明的文章教材の単元の指導の在り方、一単位時間の学習過程、要点のとらえさせ方、要約・要旨・段落構成の指導についての理論研究を行った。また、説明的文章理解のための教科書への記号記入の共通理解を図った。 ・ 学習の手引きを使って、1学期の説明的文章教材の演習を行った。教材分析表に形式段落・意味段落の要点、段落相互のはたらき、要旨等を書き込んでいった。
6	15	水	○ 小中連携研修会 ・ 本校のテーマにもとづいて全員が略案を書き、吉田ブロックの小・中学校

			の先生に授業を提供した。
6	23	木	○ 幼保小連絡会研究授業 1年 算数 教材名「ひきざん(1)」 ・ 減法が適用される問題作りの指導を通して、算数の文章問題指導の研修を深めた。
6	27	月	○ 1学期研究授業の実践報告 ・ 1学期の提供授業の意見交換を行った後、課題や今後の方向性について話し合った。
7	21	木	○ 読書指導 ・ 言語活動を充実させるために、教科書の教材に関連のある本を洗い出す作業をした。
9	5	月	○ 学力向上のための共通理解・再確認 ○ 言語活動の効果的な設定の仕方 ・ 説明的文章教材の指導方法について再確認した。 ・ 国語科における言語活動の充実についての研修(言語活動の充実が必要とされる理由・言語活動の方法・言語活動の設定の仕方)を深めた。 ・ 文学的文章教材と説明的文章教材の言語活動を指導計画に組み入れる作業を行った。
9	26	月	○ 国語科説明的文章教材の指導の在り方 2学期の説明的文章教材の指導の仕方、演習 ・ 説明的文章教材の指導の在り、要点のとらえさせ方、説明的文章理解のための教科書への記号記入の再確認を行った。 ・ 2学期の説明的文章教材について、教材分析表に形式段落・意味段落の要点、段落相互のはたらき、要旨等を書き込んでいった。
10	19	水	○ 提供授業 1年 国語 単元名「こえにだしてよもう」 教材名「くじらぐも」 研究の視点 ・ ワークシートを工夫したり、挿絵を活用したりすれば、登場人物の気持ちを想像して読むことができるのではないか。
11	9	月	○ 提供授業 4年 国語 単元名「説明のしかたについて考えよう」 教材名「アップとルーズで伝える」 研究の視点 ・ 接続語に着目したり、サイドラインや囲みを使用したりすれば、内容や段落相互の関係を読み取ることができるのではないか。
11	16	水	○ 提供授業 3年 国語 単元名「せつめいのしかたを考えよう」 教材名「すがたをかえる大豆」 研究の視点 ・ 接続語に着目したり、サイドラインや囲みを使用したりすれば、内容や段落相互の関係を読み取ることができるのではないか。
11	17	木	○ 提供授業 5年 国語 単元名「説明のしかたについて考えよう」 教材名「天気を予想する」 研究の視点 ・ 接続語や大事な言葉に着目したり、サイドラインや囲みを使用したりす

			れば、要点や段落相互の関係を読み取ることができるのではないか。
11	18	金	○ 提供授業 音専 音楽 単元名「いろいろな音色を感じ取ろう」 教材名「音のカーニバル」 研究の視点 ・ ○○のカーニバルをイメージしたり，それに適切な楽器を選んだりする際にグループで話し合えば，想像力や表現力が高められるのではないか。
11	24	木	○ 提供授業 あおぞら 国語 単元名「絵本を作ろう」 研究の視点 ・ 友達同士絵本を鑑賞し合い，認め合う活動を行えば，表現力が高められるのではないか。
11	28	月	○ 提供授業 6年 国語 単元名「ものの見方を広げよう」 教材名「『鳥獣戯画』を読む」 研究の視点 ・ 絵と文章を照らし合わせながら読み進めば，筆者がどんな感じ方をしているのかを読み取ることができるのではないか。
11	28	月	○ 2学期研究授業の実践報告 ・ 2学期の提供授業の意見交換を行った後，課題や今後の方向性について話し合った。

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・ 説明的文章教材の内容を適切に読み取るために，ワークシートを工夫することができた。
- ・ 説明的文章教材を読み進めていく上で大切なサイドラインや囲みなどの記入について共通理解した。キーセンテンスや文末表現にはサイドラインを引きやキーワードや指示語，接続語等は囲むなどの記入法を統一した。
- ・ 説明的文章教材の学習計画作りの際には，文学的文章教材の研究を生かし，学習課題をたてる手法をとればよいことを共通理解することができた。
- ・ 指導計画に言語活動を組み入れることによって，それに向けて学習計画を立てることができるようになった。
- ・ 教科書の教材に関連ある本を洗い出すことによって，図書室のどの本が利用できるかがすぐに分かるようになった。また，言語活動の充実にも役立っている。
- ・ 読書週間や読書月間の読書指導が充実している。家読（うちどく）の日を設定し家族ぐるみで読書を楽しむようになってきた。

(2) 研究の課題

- ・ 説明的文章教材の系統的な指導を確立していかなければならない。
- ・ 中心文（要点），文末表現，接続語への印の仕方について共通理解したので，共通実践する必要がある。そのために，研修の時間に，自分の学年の説明的文章教材に印を記入する演習を行ったのだが，同じ説明的文章教材を使って全員で検討する演習も行うのも効果的である。
- ・ 説明的文章教材の内容を理解させるとともに，それについての自分の考えを表現したり，それに関連したことを調べて発信したりする機会を多くし，言語活動の充実を図っていきたい。
- ・ 学年の発達段階における言語活動の習得に心がけ，系統的な指導をしていきたい。
- ・ 基礎基本定着度調査や全国学力学習状況調査の分析の際に，国語だけでなく他の教科でもPISA型学力の必要な問題を提示し，演習したり傾向を話し合ったりして授業に生かす。